

23価肺炎球菌ワクチン(ニューモバックス®NP)の接種についての説明書

肺炎球菌の予防接種を実施するに当たって、受けられる方の健康状態をよく把握する必要があります。そのため、以下の肺炎球菌ワクチンに関する情報を必ずお読みいただいた上で、予診票にできるだけ詳しくご記入ください。ご高齢の方などでご自身での記入が難しい方が接種を希望されている場合には、健康状態をよく把握しているご家族の方など代理人がご記入ください。なお、接種される方の接種希望確認ができない場合は接種できませんので予めご了承ください。

○ 肺炎球菌とは

肺炎球菌は主に気道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて飛沫感染します。日本人の約3%～5%の高齢者では鼻の奥や喉の奥に菌が常在しているとされます。これらの菌が何らかのきっかけで進展することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

肺炎球菌性肺炎は、成人肺炎の25%～40%を占め、特に高齢者での重篤化が問題になっています。脾摘患者、無脾症、リンパ腫などの患者では重篤になることが知られています。

○ 予防接種の効果

肺炎の症状の重さと死亡のリスクを軽減させる効果が期待されています。わが国でもインフルエンザワクチンとの同時接種で、肺炎リスクの高い高齢者においては肺炎予防効果と医療費抑制効果が示されています。

肺炎球菌には93種類の血清型があり、定期予防接種で使用される「ニューモバックスNP(23価肺炎球菌荚膜ポリサッカライドワクチン)」は、そのうちの23種類の血清型に効果があります。また、この23種類の血清型は成人の重症の肺炎球菌感染症の原因の約7割を占めるとされています。

○ 定期予防接種の対象者

一部公費負担で接種を受けることができる方は、伊東市に住民登録がある方で、今まで高齢者肺炎球菌の予防接種を受けていない方(公費、自費問わず)で、下記のいずれかの条件を満たす方です。

なお、予防接種を受けることの義務はなく、本人が接種を希望する場合のみに予防接種を行います。

- 接種当日に65歳の方
- 接種当日に60歳以上65歳未満で、心臓・じん臓・呼吸器系の機能に、日常生活が極度に制限される程度の障害がある方、またはヒト免疫不全ウイルスにより、免疫機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害がある方

○ 他のワクチンとの接種間隔

肺炎球菌ワクチンは不活化ワクチンであり、異なるワクチンを接種する際の間隔に規定はありません。医師が必要と認めた場合には、同時に接種することができます。

裏面もご覧ください

○ 接種が不適当な方(予防接種を受けることが適当でない方)

次のいずれかに該当すると認められる場合には、接種を行ってはいけません。

- 1 明らかな発熱（一般的に 37.5°C 以上）を呈している方
- 2 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- 3 本剤の成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな方
「アナフィラキシー」というのは、通常接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状が続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。
- 4 上記のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある方

○ 接種要注意者(接種の判断を行うに際し、注意を要する方)

次のいずれかに該当すると認められる場合には、注意して接種しなければいけません。

- 1 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有することが明らかな方
- 2 予防接種で接種後 2 日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
- 3 過去にけいれんの既往のある方
- 4 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- 5 本剤の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある方
- 6 過去に 23 價肺炎球菌ワクチンの接種を受けたことのある方
過去 5 年以内に肺炎球菌ワクチンを接種されたことのある方は、本剤の接種により注射した部分が硬くなる、痛む、赤くなるなどの症状が強く出ることがありますので特にご注意ください。

○ 接種後の注意・副反応について

- 1 接種当日は激しい運動を避けてください。接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射したところを擦らないでください。
- 2 予防接種を受けた後、まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時にほかの病気がたまたま重なって現れることがあります。接種後にみられる副反応には、発熱、接種した部位が腫れる、赤くなったりする症状が 5 % 以上認められています。筋肉痛、だるさ、違和感、悪寒、発熱、頭痛といった症状も 1 ~ 5 % 認められていますが、いずれも軽度で 2 ~ 3 日で消失します。
- 3 接種後は自らの健康管理に注意し、高熱や体調の変化、その他局所の異常反応に気づいた場合は、ただちに医師の診療を受けてください。